

【事業名】 沖縄県内に生育するキバナシュスラン、コウシュンシュスラン、ナンバンカモメランの生息域外保全  
(沖縄県国頭村、石垣市、竹富町) 【団体名】 一般財団法人沖縄美ら島財団

### 事業の背景・目的

・国内希少野生動植物種であるキバナシュスラン、コウシュンシュスラン、ナンバンカモメランは、沖縄県でも生育数が少なく、その保全が急がれる種群である。これら3種は、開花後のシュートや古い地下茎が枯れる性質などが共通しており、これらを生息域外保全株のファウンダーとして使用することで自生地個体群への影響を最小限に抑えつつ、多様な系統を保持した生息域外保全を目的に本事業を実施した。



キバナシュスラン (左:全体、右:花拡大)

### 事業の内容

・上記3種の生息域外保全におけるファウンダーの確保と技術構築を行う。また、保全に関する普及啓発活動を併せて実施した。

事業① 生息域外保全株増殖事業

- ・3種(現地収集株)の育成、保存
- ・ナンバンカモメランのリゾームからのシュート形成に及ぼす光の影響(無菌培養苗を用いた試験)



ナンバンカモメラン試験の様子

事業② 普及啓発事業

- ・沖縄国際洋蘭博覧会における事業紹介(説明パネル、生息域外保全株、培養状況の展示)



事業紹介の様子

事業③ 培養温度検討事業

- ・キバナシュスラン無菌培養苗を用いた温度試験

### 得られた成果

- ・前年度までに採集したファウンダーについて健全な育成を行い、ナンバンカモメラン1株が開花に至った(結実には至らなかった)。
- ・ナンバンカモメラン(西表島産)の無菌播種において、リゾームからのシュート形成のため5.0 - 50.0 μmol m<sup>-2</sup> s<sup>-1</sup>の光を当てる必要があると示唆された。
- ・キバナシュスラン(石垣島産)の育成において、耐寒性に関する限界温度は5℃以下であると示唆された(5℃以下は未調査)。また、10℃以下で生育が著しく抑制された。
- ・沖縄県民、ラン愛好家に対して保全の必要性を伝えた結果、「採ってはいけないことを初めて知った」「沖縄の貴重な植物を守り継いでいきたい」等の声が寄せられ、野生ランの保全に関する認知向上につながった。